

東海学生駅伝開催のためのガイドライン
新型コロナウイルス感染症予防対策

本連盟は上記の大会開催のために、公益財団法人日本陸上競技連盟の「ロードレース再開についてのガイドライン（チェックリスト）」（第3版）＜2021年1月15日＞、公益社団法人日本バス協会の「バスにおける新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン」（第5版）＜2021年6月4日＞を参考に、下記の内容を作成しています。安全、安心な大会運営を目指していますので参加校はこのガイドラインの遵守をお願いします。

【基本注意事項】

1. 「3密」の回避

- ・ソーシャルディスタンスを2m以上確保する。
- ・ソーシャルディスタンスを確保できる人数に制限する。
- ・マスクの着用を徹底する（ただし、選手の競技中は除く）。
※「選手の競技中」とは第2次点呼～競技後の呼吸が正常に戻るまでの間とする。
- ・更衣室等大会に使用する部屋は、窓やドアを開放して空気が滞留しないよう換気を徹底する。

2. 感染症対策

- ・感染経路となりうる共有物品やドアノブなど高頻度接触部位については、主催者において定期的に消毒を行うが、参加者各人も注意し、接触後の手洗いを徹底する。
- ・大会期間中は、積極的に手洗い・手指消毒をする。
- ・ハンカチ、マイタオルを持参する。
- ・感染が疑わしい競技者は、招集所で検温を実施し状況により参加を許可しない。
※感染が疑わしい競技者を発見した場合は別紙「新型コロナ対応フローチャート」に従って対応する。
- ・陽性者との接触可能性等の情報を通知し感染拡大を予測する、国の接触確認アプリの活用を行う。

【大会参加事項】

1. 大会役員、競技役員、学生審判・補助員、選手、付添、監督、コーチ、マネージャーは、指定の「体調管理チェックシート」を記入する。
選手、付添、監督、コーチ、マネージャー、学生審判、走路補助員
→体調管理チェックシートは、大会中は携帯し、大会後はチームで管理し、提出が求められた際は速やかに応じること。
競技役員→各担当場所の学連員に提出。

2. 参加大学は、感染症対策責任者を1名決め、クラスター感染を防ぐため、大会に参加する選手、付添、監督、マネージャー、学生審判・補助員の名簿（メンバーエントリー書類送付時に併せて添付のもの）を作成して本連盟に提出する。なお、検温に関して大会開催地域に入る日には自宅（下宿、寮を含む）で一度、また宿泊場所に入る前にも行う。大会当日は宿舎で検温を行い、37.5度以上の発熱があれば責任者に報告して出場を見合わせる。発熱者については各大学の責任で、直ちに大会開催地域から退去させるとともに、本連盟に報告を行う。本連盟は、競技運営目的以外に、感染症予防対策を目的に個人情報取得する旨の通知を行う。また、個人情報の第三者への提供の同意も得る。取得した個人情報は大会終了後少なくとも1月以上は本連盟で保管し、保管期間を過ぎた当該情報は、適正かつ速やかに廃棄を行う。
3. 下記に該当する場合は大会関係者の参加を認めない。
 - ① 大会当日の朝の検温で37.5度を超え、強い倦怠感と息苦しさがある。
 - ② 発熱がなくても風邪の症状やひどい体調不良となっている。
 - ③ 同居家族や知人、友人に感染が疑われている者がいる。

【陸協審判員移動事項】

1. 原則として各個人の車両にて移動し、現地集合・現地解散とする。ただし、移動する際は感染症予防を徹底し、マスクの着用を怠らない。
2. 複数で移動する際、会話は換気を行ったうえで行う。

【学生審判・補助員輸送事項】

1. 走路補助員は本連盟が用意した補助員バスに乗り担当場所まで移動する。
2. 移動（バス、公共交通機関）の際は、極力会話を避けるようにする。
3. 運行前後に車内消毒を座席、カーテン、ひじ掛け等を中心に入念なアルコール消毒を実施する。
4. 37.5℃以上の発熱や風邪の症状等がある場合には、補助員を辞退し交代要員を出してもらう。
5. 補助員業務が終われば、応援せずにそのままゴールへ迎え、大会が終了後は速やかに帰路につく。

【選手、付添の移動事項】

1. エアコンは常時外気導入モードに設定し、車内の空気入れ替えを促進する。
2. 停車時間帯は、窓を開けて換気を実施し、走行中も一部窓を開け換気する。
3. 出発前後に車内消毒を入念に実施する。
4. 必要な会話以外は行わない。
5. 乗車時はマスク着用を徹底する。

【中継所事項】

1. 招集所について
 - ・招集の際は拡声器を使用し、選手が密にならないように点呼を行う。
 - ・審判はソーシャルディスタンスをとりながらユニフォームとアスリートビブスを確認する。
2. 選手の待機場所について
 - ・選手、付添は、スタート・中継所地点に到着後すぐ、競技役員により検温を受けること。
 - ・競技役員は選手及び付添に対し、ソーシャルディスタンスを保つことを呼びかけ、注意喚起を行う。
 - ・選手は競技中以外ではマスクを着用する。着用したものは、各自持ち帰り廃棄する。
 - ・会話は必要最低限に済ませる。
 - ・付添は選手にタイム読み等を行っても良いが、必要以上に大きな声で行わないよう注意する。
3. 選手受け止めについて
 - ・ゴール後、選手受け止めが必要な場合、競技役員はマスク、フェイスシールド、手袋を着用する。
 - ・ゴールした選手にはマスクを提供し着用、手指消毒を促す。

【応援事項】

1. 部員、大学関係者の大会開催地域での応援は禁止とする。
2. コースにて参加大学の応援者を発見した場合、当該大学は失格とする場合もある。
3. 保護者・卒業生には、参加大学から HP や SNS で応援自粛の周知を行う。
4. 監督車に乗車する者は、各停車場所で選手に声を掛ける際、マスクを着用すること。マスクを外して声掛けを行うことが絶対にないよう注意する。
5. 地元住民の方々には、事前にチラシを配布し、今年度については感染症予防対策のために沿道での応援を自粛するよう要請する。

【表彰事項】

- ・閉会式を実施しないため、賞状やメダル等は後日、本連盟から当該校に郵送する。

【その他の事項】

1. 競技終了後、全ての箇所（机、いす、パソコンなど）で清掃、消毒を行う。
2. 参加者は大会後、症状が3日以上続く場合は、必ず最寄りの自治体の衛生部局と大会主催者（東海学連）に報告を行う。

3. ゴミは各自ビニール袋に入れて持ち帰る。招集所等にあるごみ箱は全て使用不可とする。
4. 嘔吐物は個人防護具を着用した者が対応し、消毒を行う。
5. リザルトは掲示をせず、本連盟の HP に掲載する。
6. 怪我、病気の応急措置については検温を再度した上で医師、看護師等医療従事者が対応するが、急病による発熱と感染症による発熱の区別がつかない場合には別途その場にいる医療従事者と相談して対応を行う。
7. 東海学生駅伝開催にあたり、本ガイドラインを感染症関連部署（警察、コロナ受入病院、消防署）に事前に送付し必要に応じて説明、相談、助言をアおぐ。

東海学生陸上競技連盟